

南アルプス・白峰三山

【日程】2016年8月11日～14日

【地域・山域】南アルプス

【形態】小屋泊縦走

【メンバー】清岡 池田 八尾 鈴木 米村

【記録】米村

■ルート／タイム

8/11(木) 木津市役所(13:10)～戸台口駐車場(19:30)

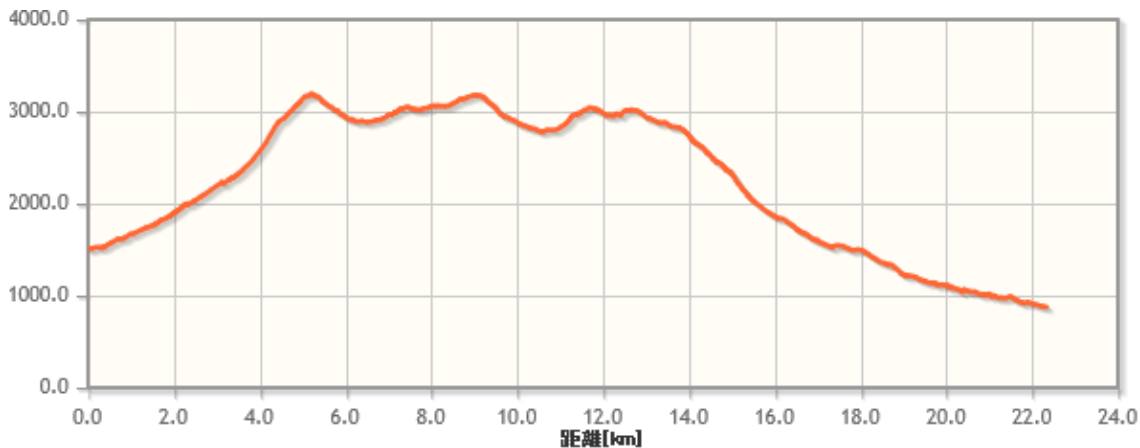
8/12(金) 戸台口(6:00 バス)～北沢峠(7:00/7:25)～広河原(7:50/8:00 出発)…大樺沢二俣(10:30/10:50)左
…八本歯のコル(14:10)…トラバース分岐(14:40)…吊尾根分岐(15:10)…北岳(15:35/16:00)…
北岳山荘(17:20)

8/13(土) 北岳山荘(4:40)…中白峰(5:35/6:00)…間ノ岳(7:25/7:40)…農鳥小屋(8:55/9:25)…西農鳥岳
(10:20)…農鳥岳(11:30/12:00)…大門沢下降点(12:30)…大門沢小屋(16:00)

8/14(日) 大門沢小屋(5:20)…第一発電所(8:15/9:06 バス)～広河原(9:55/11:20)～北沢峠(11:50/11:55)～
戸台口(12:45)



標高[m]



■報告

・8月11日(木) 晴れ

今年から制定された山の日に木津を出発し、途中鈴木さんを一宮PAでピックアップしてから5名で伊那へ向かう。
伊那市内にてソースカツ丼(肉厚で美味しかった！)を食べてから戸台口駐車場にてテント泊。

・8月12日(金) 晴れ時々曇り

早朝4時半に起床、テントを撤収し6時発のバスを待つ。
北沢峠でバスを乗り継ぎ広河原バス停へ。予定通りの8時に出発する。
青空も見えどうやら快晴の様である。
鈴木さんと私は初めての北岳とあって、テンションが上がりまくり！
「おしゃべりはいいから歩かんかい～～」
と後ろを見守ってくださっている清岡リーダーの陰の音が聞こえてくるような？
めげずにかしましく歩く二人の前を池田さんと八尾さんが引っ張ってくれる。
さあ～頑張って歩こう～～



大樺沢二俣あたりまでは調子よく進む。今回は左股コースを行く。

お花もちらほらからお花畑状態へとなり、写真を撮りながらゆっくりのんびりペースなのありがたい。
八本歯のコルあたりから先頭の池田さんが体調がいまいちと後ろへ交代し、八尾さん先頭で残り4名が追いかける形となる。



そして、ついに「ここから地獄の始まり」と言われるハシゴが連続する登りが続く。キツい！！
ポッカトレなしで参加してしまった事を後悔！つか、この期に及んでもうそんな事言っておれない。
快調に飛ばす八尾さんの紫のザックを追いかけて、悶絶しながらようやく吊尾根分岐へたどり着く。
途中目に入った北岳の切り立ったバットレスの山容は雄々しくて圧巻である。ゾクゾクした。(^^)
分岐でザックデポして北岳山頂を目指す。
それまでヨレヨレだったのが、ちょっと身軽になって元気が出てきた！現金なもんです。



山頂(3,193m)にはたくさんの登山者でいっぱい。
リーダーさんたちと握手で労う。一番好きな瞬間である。
「やったあ～～！北岳のテッペンに立ったぞお～～！」
日本で二番に高い山のテッペンから眺める360度の眺望に、しばし感動に浸る。
そうこうしていると、この時すでに16時を過ぎていた。

ガスってくるし、ちょっと焦るが安全第一にと北岳山荘へと進む。



山荘到着は、な、なんと 17 時半！！

案の定、小屋の受付のお姉さんからお叱りを受けるリーダーさんの後ろ姿に申し訳ない気持ちになる。「中高年なんだからもっと計画に余裕を持って！」と。仰る通りです、はい。

余裕を持って休憩しすぎたか？

予想通り、小屋は満員御礼！2階の大部屋へ通され、一つの布団に二人状態。(汗)

満員のため食事は「カレー」、その分宿泊代は 1,000 円の割引。ええやん～納得！！

シャバシャバの大根入りのカレーだったが、なぜか脇役のキムチ？が美味しかった。(笑)

20 時まで食堂が使えると聞き、お酒やコーヒを飲んでくつろいだ後 2 階へ行くと、もう真っ暗！！

えらいこっちゃ、ヘッドン着けるの忘れてたあ～(>_<)

真っ暗な中、そろりそろり慎重に歩いて、うん？？何かちょっと踏んだような気もするが、ようやく自分の寝床まで辿り着いた。

ただ混みのお盆のアルプス小屋泊の洗礼を受け、就寝。やれやれ、疲れるなあ。。

この夜は寝相の悪い私が両隣の八尾さん、鈴木さんに大変ご迷惑をお掛けしたらしい。

お二人さん、ほんとすみません！！お許しくださいませ～～

・8 月 13 日(土) 晴れ時々曇り

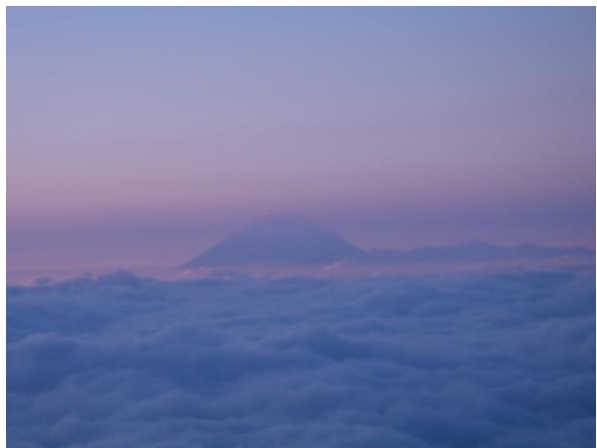
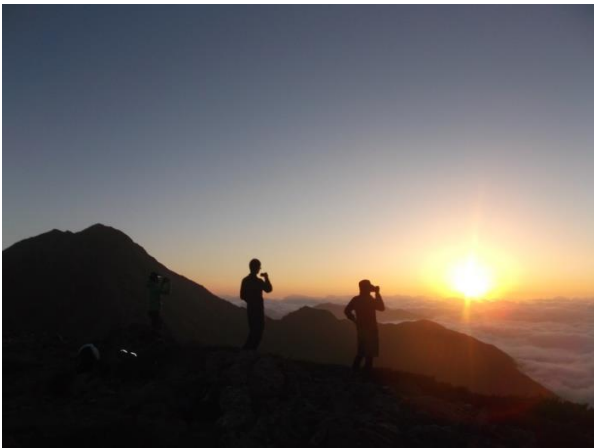
朝食はお弁当にしてもらい、4 時 40 分に出発する。

ヘッドンを点けて歩き出す、すぐに明るくなってきた。

今日もお天気がいいようだ。日の出と富士山が楽しみだなあ～～

5 時を過ぎた頃には雲海の上から来光が・・・。

富士山も顔を出してくれて、みんな一斉に撮影タイムに入る。幸せな一時である。



今日は池田さんは調子がいいらしく、先頭を快調に歩いていく。
その後は超健脚な八尾さん、次に私、鈴木さん、最後尾を清岡さん、の隊の形が出来てきた。
時折後ろを振り返ると、北岳と今まで歩いてきた稜線が続いている。
その横には甲斐駒、仙丈の姿も。
中白峰で朝食のお弁当を食べて間ノ岳へと進む。今回の山行の二つ目の百名山である。



間ノ岳(3,190m)の山頂からは、赤い屋根の農鳥小屋とこれから登る西農鳥岳、その後方の塩見岳、荒川三山が覗く。
ここでも休憩を取りながら農鳥小屋へ、そしてまたまた休憩。
そうそう、このトイレ(いや便所と言った方がしっくりくる)は噂通りであった！
何が噂通りかは一度行って見てのお楽しみに。(^^*)
たしかこの辺りだったか？団体さん何組かが同じ大門沢小屋に泊まるとの情報を聞く。
嫌な予感がよぎるが、お盆シーズンだから仕方ない。
休憩の後、西農鳥岳へ登り出す。つづら折れの登山道で歩きやすい。
山頂ではそそくさと写真を撮り、前へ進む。

向かう農鳥岳へは〇×とペイントされた岩場を回り込むとトラバースの登山道が続く。
その先がピークになっているようだ。山頂の多くの人影はまるでオブジェのようだ。



農鳥岳(3,026m)に到着する。
山頂は岩場で狭い。西農鳥岳の方が広々としている感じがした。
南アルプスらしい丸が縦に並んだ標識の前で記念撮影。
ここより後は、ほぼ下り、それも 1,000m も下らないといけない。



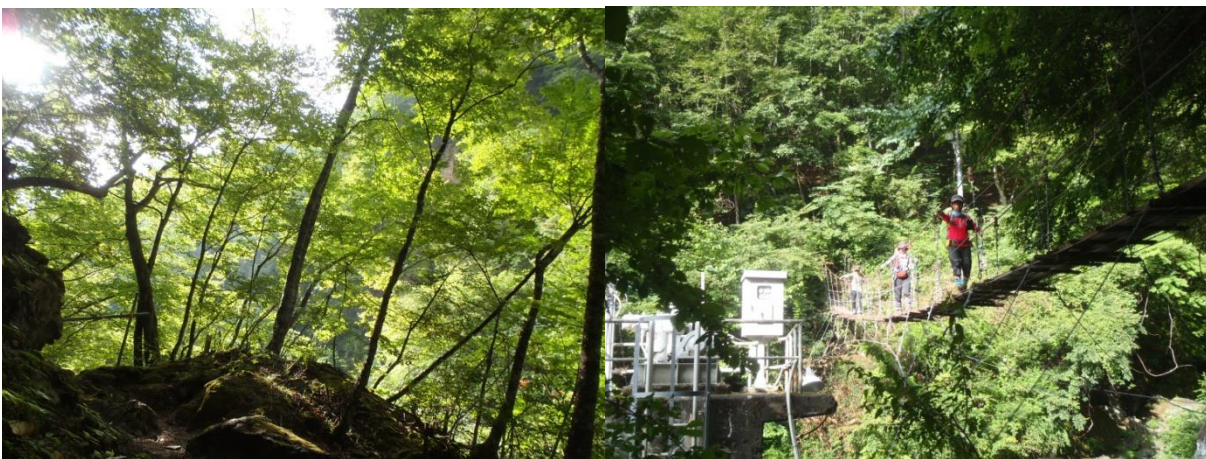
ゆっくり目の休憩後、鐘のなる大門沢分岐点へ。(もちろん鳴らしましたよ！)
私たちの後には国内のツアー団体と韓国からのツアー団体が続々と降りてくる。
やはり大門沢小屋泊まりのようだ。
小屋までの下りは激坂あり、ザレ場ズリズリありで滑りやすく気が休まらない下山だった。
朽ち掛けた橋を渡り、渡渉を何度も繰り返し沢沿いを歩くも、なかなか小屋が見えない。
もう足も使い倒した頃ようやく辿り着いた。
先に着いた池田さんの話だと、今夜は「一つの布団に三人」らしい。
再度受付で交渉したところ、一人 1,000 プラスで個室が取れた。ラッキー！！
2階の大広間の先にその個室があった。
まずは、ビールで乾杯～ 疲れ切った身体にアルコールが染み渡る！（ちなみに私は下戸ですが…）
食事を済ますと、さすがに疲れたのか、6時過ぎにみんな眠りにつく。
私は大部屋に韓国の団体が何やら騒々しく気になって眠れない。
電話も何度も鳴っていて、どうやら参加者の一人が骨折したらしい。
9時前によく静かになり、やれやれである。

・8月14日(日) 曇り後晴れ、時々雨

夜に雨が降ったようだが、早朝には止んでいた。
4時半に食事を済ませて、第一発電所の9時のバスに乗るために5時20分に出発する。
前日の下りほどではないが、渡渉もあり気が抜けない下山である。



鈴木さんは清岡リーダーの指導で、カラビナ&シュリングをロープにかけて木の橋を渡っていた。川は流れも速く増量していたので、万が一流された時に安全である。私はザックの横に取り付けていてその上をザックカバーで覆っていたので無しで渡ったが、今後はいつでも出せるようにしておかなければいけない。小屋を出てすぐにヘリが飛んでいたが、骨折した怪我人の救助ヘリだったようだ。途中の登山道でレスキュー隊にも遭遇した。実はこの日私自身、石に足を滑らせて転倒してしまった。幸い擦り傷程度の怪我だけで済んだが、谷側に転落していたらと思うとぞっとする。



沢沿いの細い道から苔むした芦生の森を彷彿させるような森林へと、変化がある下山道である。約3時間で第一発電所に着いた。バスを乗り継ぎ、戸台口駐車場に着いたのはお昼を過ぎていた。広河原で少しの時間待ちはあったものの、臨時バスが出て早く帰れてよかった。仙流荘で汗を流して帰路に着く。好天に恵まれ思い出に残る縦走となった。

■咲いていた花たち

